

観月路地飾り

10月4日①～6日②

月明りの下、美濃和紙あかりアートが
路地を灯します。

協力：美濃市観光協会



星空観察会

10月4日① 19:00～

※雨天の場合は5日②に順延
仲秋の名月を見ながら星空観察をしましょう。

場所：常夜燈広場



観月茶会&ギャラリートーク前売り券販売方法

- A・Bそれぞれの販売枚数が売り切れ次第終了となります。お早めにお買い求めください。
- 日時変更、払い戻しはいたしません。

A 白鳥庭園正門窓口

- 窓口直接購入 8月16日(土)から
観月茶会は各席当日16:00まで販売
ギャラリートークは各回当日12:00まで販売
白鳥庭園正門窓口までお越しください。
(販売時間 9:00～16:30)
- ※10月4日(土)・5日(日)は21:00まで販売
- ※休園日：毎週月曜日(祝休日の場合は開園、翌平日休園)
- ※電話でのご予約はできません。

<チケット取り扱い>

- ※名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口<土日祝日も営業>でもお求めいただけます。
(工事休館などがありますので、事業団ウェブサイトでご確認ください。)

B 名古屋市文化振興事業団チケットガイド

- 予約受付期間
十三夜の席(10月4日)・小望月の席(10月5日)・
ギャラリートーク(10月4日・5日)
8月19日(火)～9月19日(金)17:00まで
中秋の席(10月6日)
8月19日(火)～9月22日(月)17:00まで
<電話>052-249-9387
<メール>コードのリンク先「メール予約」からご予約ください。
- 窓口直接購入 8月19日(火)～9月26日(金)17:00まで



チケット取り扱い施設



メール予約はこちら

お問い合わせ先

白鳥庭園管理事務所
名古屋市熱田区熱田西町2番5号
TEL：052-681-8928



秋露祭

令和7年
9月30日(火)～10月19日(日)
10月19日(日)は「名古屋まつり」のため入園無料

- 4日・5日は開園時間を9:00～21:30まで延長。
- 6日は中秋の名月に合わせて17:00より臨時開園いたします。
※夜間開園は正門のみの入園(北門は閉門)となります。
入園は21:00まで。

観月茶会

仲秋の名月があがる方向を計算して建てられた清羽亭で、
名月を楽しんでいただくための「観月の茶会」を開催します。
※持ち物：靴下もしくは足袋

4日十三夜の席(中国茶席)

中国茶 岩崎康直
お茶▶楽工房／お菓子▶不老園正光

時間 ①18:00～②18:30～③19:00～
④19:30～⑤20:00～⑥20:30～

席料 一席 800円
定員 各席 24名



5日小望月の席(薄茶席)

表千家 安田一絵
お茶▶清寿園／お菓子▶みり屋

時間 ①18:00～②18:30～③19:00～
④19:30～⑤20:00～⑥20:30～

席料 一席 800円
定員 各席 24名

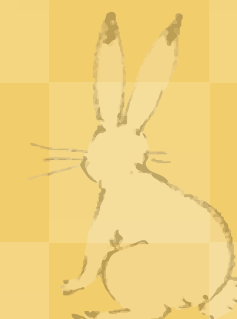
6日中秋の席 中秋の名月を愛でる 特別なお席です。

尾州有楽流 水野宗栄
栗名月にちなんだ"お浸ぎ"をご用意いたします。
お茶▶清寿園／お菓子▶大黒屋／お浸ぎ▶日本料理 須多

時間 ①18:00～②19:00～③20:00～

席料 一席 4,000円
定員 各席 24名

※一席ごとの入れ替え制になります。
※いずれも前売り券の販売がございます。詳細は裏面をご覧ください。



白鳥庭園プロジェクト

カンショウ する 楽園



名古屋芸術大学

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS

×

白鳥庭園

SHIROTORI GARDEN



美術領域
工芸コース



デザイン領域
メタル&ジュエリー
デザインコース

白鳥庭園と名古屋芸術大学 美術領域工芸コース・デザイン領域メタル&ジュエリーデザインコースとの協働企画『カンショウする楽園』展を開催いたします。

名古屋芸術大学 両コース総勢 18 名の学生・スタッフによる、白鳥庭園からインスピレーションを受けた、陶、ガラス、金属を用いた作品を、園内各所にて展覧いたします。

自然豊かな庭園に点在する作品を探しながら巡ると、庭園と作品が調和する新しい風景に出会う、自然と芸術に思いを巡らす展覧会です。

この展覧会では、庭園と作品群が干涉しあい、それぞれを緩衝する要素となって、互いを引き立てることになるでしょう。また、それらを鑑賞する人々はその風景に触れて、

新しい出会いに気持ちが高揚したり、時に昔を懐かしみ感傷的になることもあるでしょう。

美術／工芸による作品群と庭園を巡って、人間と自然が一体化する空間、

まさに「楽園」となることを目指します。

展示▶名古屋芸術大学 美術領域 工芸コース
デザイン領域 メタル&ジュエリーデザインコース

参加作家紹介

(☆) の作家の画像は参考作品です。

東藍香

この作品を見た人が、生き物の生態や環境問題について深く考え、自分と社会が地球のためにどんなことができるかを考えられるようなものを作りたいたいと思い、制作しました。



池田考作 (☆)

やってきたあやこれやも、一旦置いておいて先へ進もうとする。道中で忘れてきたものをさえ置き去りにしたいところだが、ぼんやり浮かぶ、重かったから置いてきたり、重要ではなくて忘れていたりするが、手放しても重かったり、重要なことであれ忘れたりもする。あれ？あれ！



植村宏木

目には映らないが確かに存在する“もの”を捉えようと試みている。目の前にあるものを見つめるとき、欠けているものを意識することがある。また、目には見えていない遠くの物事が、想像によって目の前に現れるような感覚をおぼえることもある。意識ひとつで〈ある〉と〈ない〉は目の前の物事に複雑に関わっていく。〈あること〉と〈ないこと〉の境目は、揺らぎながら私たちの世界に存在している。



岡島真怜

忘れたくない、ずっと覚えておきたい自分の思い出や記憶の雫をともに制作しています。実際に自分の足で庭園内を歩き、魅力的に感じた景色を七宝焼で表現しました。庭園の景色を思い浮かべながら鑑賞して欲しいです。



川嶋野唯

岐阜の長良川で行われている鵜飼をイメージし、白鳥庭園の長良川を表現している場所で鵜飼の上に乗る鵜をイメージして陶で制作しました。



澤木亮壮

数寄屋建築で出来ている清羽亭に遊び心のある鯉の自在置物を展示します。



徐可欣

このシリーズ作品は、「四季が流れる」と言います。枯梗という植物の開花過程をイメージして、四季の移ろいを表現しようとした作品です。私は、花の成長過程に基づき、春夏秋冬という四つの時期に応じて、作品を4点制作しました。そして、一個一個の作品の中にお香を入れることによって、形態と香りの両方から味わうことが出来る作品を作りました。



杉山 仁彦 (☆)

去年参加させて頂いた時は、池の中に作品を設置しました。今回の展覧会では、陶にひらがなを刻印した作品のシリーズを展示させて頂きます。是非、ご高覧ください！



關山瑞季

目には見えない記憶を陶や様々な素材、手法を用いて表現し、作品という形で自分の考えや思いを、記録として残してきました。今回は、「記憶の旅」をテーマとした作品を制作しました。



高木愛菜 (☆)

白鳥庭園の池には、色とりどりの鯉が泳いでいました。池を眺めている際、黒、赤、金色の鯉を綺麗だと眺める一方、どんどん離れていってしまう鯉たちに寂しさも覚えました。ガラスの透明度を生かし、器の底に鯉たちが泳いでいる情景を写し取りたいと思いました。



高木悠斗

私と水の物語を考えた時、最も強く思ったのは、水に対する「嫌」や「不愉快」という気持ちでした。何も考えず、ただ「嫌い」という気持ちをぶつけた作品になります。



竹田歩里 (☆)

生物の物理的に同じ環境に身を置きながらも物事を知覚する方法が全く異なることに面白さを見出し、作品の造形表現に落とし込みながら実際に目の前に対峙しているかのようなリアルタイムな姿を陶に置き換え制作を行っている。



福田乃愛

幼い頃に溺れかけた体験から、水への恐怖と美しさを表現した。水中で見た気泡の輝きが記憶に残り、球体を用いて「死と生」「恐怖と美しさ」の境界を0.5秒の瞬間として再現しました。



増田彩菜

雨の日、どれだけ人がいたとしても1人の空間が生み出される。声を出しても隣の人には届かない。雨により外部との接続が遮断されひとりの世界に没頭できる、そんな時間を具現化した。



松本沙莉

白鳥庭園で見たユキヤナギという植物がモチーフ。生命力と儚さを淹の水風に重ね、芽吹きから枯れ朽ちるまでの姿を、水の流れのようなフォルムで表現した作品。



宮池莉菜

白鳥庭園に赴いた際に、思ったことは昔の人が描いた極楽や楽園、天国に似ているということだった。もし、私がそんな世界に行けるとしたら、魚くらい浮いている場所じゃなきゃつまらない。そう考え制作した。



森田倅生

白鳥庭園を見学した際、浦島太郎伝説に登場する地を模した「寝覚の床」が非常に印象的でした。私の地元でも浦島太郎に関する伝説が残っており、私にとって身近な存在であることから今回は亀をモチーフとした作品を制作しています。



山岸祥也

一枚の金属板から作る鍛金技法による、庭園に調和した豊かな色彩を放つ金属器を展示します。



ギャラリートーク＆「鑑賞ゲリラ」 アートツアー

10月4日㊤・5日㊦

●時 間 13：30～15：30

●場 所 清羽亭 立礼席／庭園内

●参加費 800円(呈茶付き)

●定 員 各日20名

立礼席にて、参加作家とファシリテーターによる対話型ギャラリートーク(約50分)の後、庭園内の作品を巡るアートツアー(約1時間)へ向かいます。

※鑑賞ゲリラは、対話型鑑賞でアート作品の豊かな鑑賞体験をサポートするファシリテーターのグループです。



「鑑賞ゲリラ」公式サイト



※前売り券の販売がございます。
詳細は裏面をご覧ください。

■屋外展示

期間▶9月30日㊤～10月19日㊦

鑑賞時間は開園時間に準じます。

※夜間は見られない作品があります。

■清羽亭展示

期間▶10月2日㊤～5日㊦

時間▶9：30～16：00
(夜間開園時は21：00まで)